

「〇〇ハラスメント」いくつ知っていますか？

昨年の流行語のようになった「マタハラ」、「えっ？何のこと」と思った方も多いのではないのでしょうか。「セクハラ」「パワハラ」は一般的になって知っている方も多いと思います。でも、最近はいろいろな言葉にハラスメントがついて、何のことかぴんとこないものも多いのではないのでしょうか。ちょっと調べてみたら、なんと26種類もあるそうです。

	種 類（意 味）		種 類（意 味）
1	セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	14	エイジ・ハラスメント（女性の年齢に対する偏見やコンプレックス）
2	パワー・ハラスメント（上司の嫌がらせ）	15	シルバー・ハラスメント（高齢者への嫌がらせ）
3	マタニティー・ハラスメント（妊婦への嫌がらせ）	16	マリッジ・ハラスメント（未婚の女性への「結婚は？、などの嫌がらせ）
4	セカンド・ハラスメント（セクハラを訴えた事による二次的嫌がらせ）	17	ドクター・ハラスメント（患者への横柄な態度や暴言、患者による悪質なクレームなどの嫌がらせもある）
5	リストラ・ハラスメント（リストラ対象者への嫌がらせ・退職強要）	18	スメル・ハラスメント（きつい体臭や香水・芳香剤などによる嫌がらせ・・・本人が無意識かどうかは問わない）
6	スモーク・ハラスメント（受動喫煙の強要）	19	エアー・ハラスメント（意図的にその場の空気を悪くする目的をもったハラスメント）
7	アカデミック・ハラスメント（教授や先生の学生に対するいじめや嫌がらせ）	20	ブラッドタイプ・ハラスメント（血液型に固執する日本特有のハラスメント）
8	キャンパス・ハラスメント（勉学・研究の環境を故意に害すること）	21	テクノロジー・ハラスメント（IT技能に長けた人がそうでない人にこれ見よがしにする嫌がらせ）
9	モラル・ハラスメント（見えない暴力で支配する）	22	エレクトロニック・ハラスメント（最先端の技術で《電磁波やマイクロ波など》肉体的精神的な苦痛を与えること）
10	ジェンダー・ハラスメント（女性・男性の固定的なイメージの強要）	23	カラオケ・ハラスメント（カラオケの強要）
11	テクスチュアル・ハラスメント（女性作家や女性アーティストに対する嫌がらせ）	24	ゼクシャル・ハラスメント（親から未婚の子どもへの結婚強要・言葉の嫌がらせ）
12	アルコール・ハラスメント（お酒の強要）	25	レイシャル（人種）・ハラスメント（国籍や出身に関するいじめ）
13	ペット・ハラスメント（ペットへのいじめ）	26	パーソナル・ハラスメント（自分以外のターゲットを決めていじめ行為をすること）

※なるほどと思うこともあれば、そんなことまでと思うことまで様々ですね。

なるべく波風立てないようにというのが日本人の美德でしたが、訴訟社会の欧米に似てきたのか、権利意識が一般に浸透してきたためか、黙って我慢する時代は終わった感があります。

【人権】とは文字通り「人が人らしく生きていくための、当然の権利」ですが、日本人にはあまりなじみのない言葉だったので、権利は「守るもの」という意識が非常に強いと思います。そのため「権利」の反対と言えば、普通に「義務」と答える人が多いのが日本です。

しかし人権意識の高い欧米諸国では「権利」は「使うもの」であり、反対の言葉は【責任】です。ですので、権利を使えば使うほど自分の果たすべき責任が重くなると考えます。権利を主張するときは、それに伴う責任をどう果たすかを考えなければならないのです。

日本では大きな問題が起こったとき、管理責任のある人達がそろって「申し訳ありませんでした。」と謝罪する場面が見られますが、欧米から見ると希少な光景だそうです。謝っても何も解決しないので、過失に対してどう責任を取るのか、きちんと説明することを求められます。

世の中には様々な偏見や差別が溢れていて、いつ自分が被害者・加害者になるかわかりません。権利を使うときは、きちんと責任を果たすことを、これから子どもたちに教えていかなければなりません。私たち大人には、ツイッターやネットに自分のプライバシーや悪口・中傷を載せたり、悪ふざけ・別れた交際相手への逆恨みによる写真の拡散などの軽率な行動をとったりすることが、どんな結果を招き、どんな責任を取られるか、やる前に考える大人にする責任があるのです。

